学生海外調査研究	
中国人女性の性別役割分業意識を形成する要因：インタビュー調査による検討	
氏名 田 姫	ジェンダー学際研究専攻
期間	2015年8月8日～2015年8月22日
場所	中国（北京・済南・濰坊）
施設	会社・ご自宅など

内容報告

1. 海外調査研究の背景と目的

中国は著しい経済成長を遂げる一方で、若年層の性別役割分業意識は保守化している（徐 2010, 第三期中国婦女社会地位調査課題組 2010）。日本においても、若年層の性別役割分業意識が保守化しているという調査結果が出ており、両国には同様の傾向がみられる。例えば、JGSS 累積データと内閣府の調査を基づいた分析（佐々木 2012）や、日本の現役高校生を対象としたパネル調査（長尾 2008）の分析結果において、日本の若年層の性別役割分業意識にも保守化が見られたという結果が示されている。日本に遅れて経済成長を迎えた中国においても、今後同様の変化がより広範に起こることが予想される。

これまで、子どもの性別役割分業意識の形成には、両親からの影響が大きいことが明らかにされてきたが、成人した若者がどのような影響を受けながら性別役割分業意識を変化させていくのかという点については十分に明らかにされてきたとは言い難く、先行研究もマクロ視点からの計量的な分析がほとんどである。

そこで本研究では、20～30代である中国人女性の性別役割分業意識の変化と、進学、社会進出、結婚、出産などのライフイベントがどのように関連しているかについて、ミクロの視点から検討することとする。さらに、出生時期（コホート）ごとや個人の性別役割分業意識が変化する過程で、当事者は葛藤があったのかどうか、もしあったならば、当事者は毎日の生活の中でどのようにバランスを取り、調整しているのかについて質的調査を通して検討する。

研究目的に従って、本調査の目的は以下の3点である：

①青年層（本研究では20代～30代）にある各コホート（70年代生まれ、80年代生まれ、90年代生まれ）の性別役割分業意識と個人の変化の傾向、過程を把握する。

②性別役割分業意識が各コホートの進学、社会進出、結婚、出産などのライフイベントに与えている影響を明らかにする。

③若者の性別役割分業意識の変化を規定する要因、特に世代間の影響、及び相互作用を明らかにする。

今回の調査は質的研究であり、それによって量的調査で解明が困難な問題をミクロの視点で分析することができる。各コホートの性別役割分業意識に影響する要因と変化する際の葛藤を明らかにし、当事者への影響と世代間の相互作用を解明できると考える。

1.2 学位論文における本調査研究の位置づけ

博士論文では、女性の性別役割分業意識を中心に上げるため、今回中国で行う調査は博士論文の基になるデータと言える。さらに、今回の調査データの検討、分析がないと今後の博士論文のための量的調査の質問設定、先行研究のまとめができなくなるため、今回の調査は本研究にとって欠かせない調査であり、大変重要な位置を占めている。

1.3 先行研究の検討

性別役割分業意識に関する研究はアメリカを始め、日本、中国にも多数である。性別役割分業意識

は本人の年齢（コホート）（尾嶋 1998、徐 2010、佐々木 2012、永瀬 2014）、教育年数（中澤 2007）、就業経験（大和 1995）、家族形態（徐 2010、王ら 2014）、母親の就業経験（佐野 2007、中澤 2007、佐々木 2012）との関連性が明らかにされ、また、時代効果について、日本とアメリカでは同じような強い影響が見られた（尾嶋 1998）。この中、最も変化があるのは若い女性である。これまでの研究が明らかにしてきたことをまとめるならば、若い女性で、学歴が高く、就業経験が豊富であるほど、また子供の頃に母親が働いていたひとほど、「非伝統的な」性別役割思考を持ち、性別役割分業を否定する態度が強い（尾嶋 1998）。また、先行研究の総括として、男性より女性のほうが、年代が若くなるにつれ、さらに高学歴者・就業者であるほど伝統的な性別役割意識が弱まると内藤ら（2003）が述べられている。

以上の研究を元に、若者は性別で「分業」をするような意識が薄くなり、性別役割分業意識が柔軟的になって行くことを推測することは難しくない。しかし、実際はそうにはならず、上で述べたように、近年日本でも中国でも若者の性別役割分業意識が保守化している。

したがって、性別役割分業意識の形成を考える際に、政策、教育、社会全体の経済や労働市場などマクロ的な視点、個人の属性、家族成員の経歴などの視点なども重要であるが、個々人の意識の変化の節目を把握することにより、目に見えない意識の「流動」を当事者の語りを通して明らかにすることができると考える。当人にとっての「役割」はどのようなものなのか、役割分業意識の形成に重要となる他者はだれなのか、当人の役割分業意識と実際の行動にはズレがあるか否か、ズレがあった場合に、当人が直面する葛藤などの、当事者の立場から出発点となる視点も、性別役割分業意識に関する研究に欠かせない部分と言えるだろう。

2. 調査とデータの概要

今回の調査は2015年8月8日から22日までの15日間で行った。調査場所は中国北京市、済南市、淮坊市の三都市であり、そのため、現地に行く前から、調査協力者との交渉を開始した。

まず、研究者が調査協力者の紹介が可能な知人に本研究の目的・意義を説明して、理解を得た。その後、紹介者に調査協力者を募ってもらった。協力可能な方に、研究者の連絡先（wechatID）¹を紹介者から伝えてもらい、調査協力候補者から直接研究者に連絡してもらうようにした。

Wechat で研究協力可能な候補者からメールアドレスを取得し、調査協力依頼書を調査協力候補者にメールにて送り、承諾を得られた場合は、調査協力者の都合を最優先に、インタビュー調査の日程や場所の調整をした。インタビュー時に、協力者の許可を取ってからICレコーダーによる録音、メモをした。データを使用する際に、ICレコーダーによる録音データを文字化し、最後に日本語に翻訳した。

2.1 データの概要

本調査の対象者となるのは、20代～30代の出産・子育て経験を持つ既婚者、かつ結婚、出産する際に両親が健在であった中国人女性である、15名からの承諾を得られた。調査対象の内訳は表1の通りである。

質問項目については、対象者が中学生であったときから現在までの間、性別役割分業意識がどのように変化したか、およびそれに影響したと思われるエピソードやライフイベントの詳細を問うた。調査協力者に、研究倫理誓約書にてプライバシーの保護および守秘義務の遵守、学術目的以外では利用しないことを説明し、本人及び配偶者、両親の基本属性を問うフェースシートとインタビューガイド（表2半構造化インタビューの内容）を参考にしながら、調査協力者の会話の流れを重視し、行動や表情などの観察も同時に進めた。

表1. 調査対象の内訳

対象者番号	地域	年齢	学歴	就労状況	就労経験	年収	配偶者年齢	配偶者学歴	配偶者の就業状況	配偶者年収	子ども年齢	
1	A-1	北京	30	大学	正社員	あり	10～15万円	30	大学	正社員	15万円	0.7
2	A-2	北京	34	大学	正社員	あり	30万円	35	大学院	正社員	20万円	1

				院								
3	A-3	北京	30	大学院	作家	あり	50~60万円	30	大学	自営業	15万円	1
4	A-4	北京	30	短大	正社員	あり	6~11万円	30~35	大学	正社員	10万円	0.7
5	A-5	北京	30	大学	正社員	あり	30万円	30	大学	正社員	28万円	3
6	B-1	済南	29	大学	主婦	あり	0	31	大学	正社員	20万円	0.6
7	B-2	済南	30	短大	自営業	あり	3~5万円	30	短大	自営業	3万円	1.5
8	B-3	済南	29	大学	正社員	あり	3万円	30	大学	正社員	5万円	3
9	B-4	済南	25	短大	主婦	あり	2~3万円	30	大学	正社員	4~5万円	1
10	B-5	済南	29	大学	正社員	あり	4万円	30	大学	正社員	14~15万円	2.5
11	C-1	濰坊	29	大学	正社員	あり	5万円	27	大学	正社員	8万円	2
12	C-2	濰坊	29	大学	正社員	あり	5~6万円	31	大学院	正社員	6~7万円	2.3
13	C-3	濰坊	29	大学	正社員	あり	20万円	29	大学	正社員	15万円	0.7
14	C-4	濰坊	29	大学	正社員	あり	4万円	32	大学	正社員	30万円	3.5
15	C-5	濰坊	28	大学	正社員	あり	4万円	28	大学	自営業	10万円	1.5

※注:Aは北京市、Bは済南市、Cは濰坊市である。

表2. 半構造化インタビューの内容

現在の役割分業意識	結婚相手について
1-1 テレビやドラマなどで「出世よりよい結婚相手」という言葉を聞いたことがあると思いますが、これについてどう思いますか？	7-1 あなたが考えている一般的な結婚相手の理想像、及び理想結婚年齢を教えてください。
1-2 「女性だからこうあるべきだ」、「女性だからこうしてはだめだ」と言われたことがありますか？だれから言われました？その後自分の対応は？	7-2 あなたの結婚相手の状況及び結婚年齢を教えてください。
	7-3 あなたの理想像及び理想年齢の形成にはどこから受けた影響が大きいですか？
	7-4 あなたの考えと一般的な考えは一致していると思いますか？
	7-5 一致しない場合は自分がどのように行動しますか？
傾向&過程	
2-1 「出世よりよい結婚相手」という考えについてどう思いますか？	
2-2 その当時どのような影響を受けて現在の考えをもつようになったのですか？具体的にどのようなことを言われましたか？どこから受けた影響が最も強いのですか？	
3-1 中学校や高校の時期に考えた女性がやるべきことと男性がやるべきことについて	結婚後の役割期待

<p>で教えてください。(家庭役割、経済的役割の分担)</p> <p>3-2 文系か理系かを選ぶ際に、自分が女性だから文系もしくは理系かと考えたことがありますか？(中国では高校二年生の時点で文系か理系かについて進路を選ばなければならない)</p> <p>3-3 選択する際に、誰からアドバイスをもらいましたか？最終的な選択は自分の意思による部分が多かったですか？それとも他人の意思による部分が多かったですか？</p> <p>4-1 大学時代に考えた女性がやるべきことと男性がやるべきことについて教えてください。(家庭役割、経済的役割の分担)</p> <p>4-2 大学に進学する際に、自分は女性だからこうしようと考えたことはありましたか？</p> <p>4-3 大学の選択は誰からアドバイスをもらいましたか？最終的な選択は自分の意思による部分が多かったですか？それとも他人の意思による部分が多かったですか？</p> <p>5-1 職業を選択する際に自分は女性だからある職業に向いていない、向いていると考えたことはありますか？</p> <p>5-2 職業選択する際に誰からアドバイスをもらいましたか？最終的な選択は自分の意思による部分が多かったですか？それとも他人の意思による部分が多かったですか？</p> <p>5-3 男性と女性の家庭役割、経済的役割の分担についての考え</p> <p>6-1 従業後に社会経験を積むことによって、男性と女性の役割分業についての考えは変化しましたか？</p> <p>6-2 変化した場合はどこから影響を受けましたか、何か変化するきっかけがありますか？</p> <p>6-3 男性と女性の家庭役割、経済的役割の分担についての考え</p>	<p>8-1 あなたが考えている一般的な家庭内役割の理想像を教えてください。</p> <p>8-2 あなたの家庭内役割を教えてください。</p> <p>8-3 あなたの理想像の形成にはどこから受けた影響が大きいですか？</p> <p>8-4 あなたの考えと一般的な考えは一致していますか？</p> <p>8-5 一致しない場合はあなたがどのような行動を取りますか？</p> <p>8-6 夫婦の理想の働き方について教えてください。</p> <p>9-1 あなたが考えている一般的な育児に関する家庭内役割の理想像を教えてください。</p> <p>9-2 あなたが考えている育児に関する家庭内役割の理想像及び現在の実態を教えてください。</p> <p>9-3 あなたの理想像の形成にはどこから受けた影響が大きいですか？</p> <p>9-4 自分の考えと一般的な考えは一致していますか？</p> <p>9-5 一致しない場合は自分がどのような行動を取りますか？</p>
親との相互作用	
	<p>10-1 高校、大学、現在までに、両親のあなたに対する期待が変化したことはありますか？</p> <p>10-2 あなた自身の行動で親の役割意識を変えたことがありますか？</p> <p>10-3 それはつい、何についてのことでですか？</p> <p>10-4 変えられなかった理由について教えてください。</p>

2.2 調査実施地の概要

中国には 34 の省級行政区画があり、省の下位に市という行政単位を設けてある。直轄市、副省級市以外の比較的大きな都市を地級市に、さらにその下位に県級市もある。地級市以上の市は 2014 年の中国国家统计局の数値によれば 333² 個である。

中国では、都市の面積と経済力、人口をもとに、多くの経済誌が独自の調査から都市ランキングを公表している。それらによると主に、北京や上海に代表される一級都市、省の行政府所在地の都市などの二級都市、それ以外の比較的大きく、経済が発達している三級都市、というように、ランクが付けられている。

2014 年に、中国国務院は「国務院都市規模区分標準通知」³ を公表し、人口数をもとに都市を五種類および七つのレベルに区分した。今回調査した北京は常駐人口が 1000 万人以上であるため、超特大都市に当てはまり⁴、済南は一型大都市、濰坊は二型大都市に当てはまる⁵。

また、中国の大型経済誌『第一財経』は 2013 年に、人口だけでなく、当地の GDP、平均収入、大学の数などから総合的に 400 個の都市にランキングを付け、発表した。その中で、伝統的な一級都市である北京、上海などの他に、重慶、西安など 15 の都市を新一級都市と評価し、さらに、他の都市を五級までランキング付けした。今回調査した北京は伝統的な一級都市であり、済南は新一級都市、濰坊は二級都市となっている⁶。

今回の調査は主に都市部で実施するが、都市間の差も含めて考慮し、これから検討できるように、人口数と経済指数、また調査の実施可能性もアプローチした上、北京、済南、濰坊の三都市で今回の調査を実施した。

3.本海外調査に置ける成果

従来の研究は意識の形成や変化に作用する要因や意識の構造をある程度解明した。しかし、家族内の性別役割分業意識の変化は、当人の経験に基づき、意味づけられる行為としてのダイナミックなプロセスであるため、今までの研究はこのようなダイナミックな変化のプロセスを解明したとは言い難い。家族発達段階の移行による性別役割分担や意識の変容過程に直接アプローチするためには、

従来の平均値的な量的研究だけではなく、個別的な質的研究が必要となる（内藤ら 2003）。

本海外調査は青年層にある各コホートの性別役割分業意識とその変化の過程を把握し、性別役割分業意識がライフイベントに与えている影響と若者の性別役割分業意識の変化を規定する要因、及び世代間の影響、及び相互作用を明らかにすることを目的として、半構造化インタビューを用いた質的調査を実施した。インタビュー調査を通して、調査協力者の中学校、高校生頃から出産するまでの役割分業意識やそれによる行動や選択、葛藤などを聞き出し、ダイナミックなデータを得られた。本海外調査で得られたデータを慎重な分析を行い、博士論文の問題設定の基になると考える。さらに、今回の調査の成果を国内外の学会で発表し、その後、論文にまとめ、学術誌に投稿する予定である。

謝辞

この度、お茶の水女子大学文部科学省特別経費「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」プロジェクト「学生海外派遣」プログラムに採択をいただき、深く感謝を申し上げます。

本海外調査を遂行するに当たり、サバティカル中にも関わらず、ご指導をいただきました指導教員の石井クンツ昌子教授。申請書の作成や調査計画にご指導をいただいた本学藤崎宏子教授およびゼミの皆様、石井クンツ教授研究室の高丸理香氏、高山純子氏、尾曲美香氏、山形大学男女共同参画推進室米沢分室助教の劉楠氏、また、インタビューを快諾していただいた協力者の皆様に心より感謝を申し上げます。

注

1. 中国の大手 IT 企業テンセントが開発した無料インスタントメッセージングアプリである。中国の若者の中での普及率が高い。
2. 中華人民共和国国家统计局—国家データ（中华人民共和国国家统计局—国家数据）
<http://data.stats.gov.cn/tablequery.htm?code=AD01>（閲覧日:2015年8月15日）
3. 国务院—国务院調整都市規模区分標準の通知（国务院关于调整城市规模划分标准的通知—国务院）
http://www.gov.cn/zhengce/content/2014-11/20/content_9225.htm（閲覧日:2015年9月15日）
都市部の常住人口を基に、都市を 5 類型 7 レベルに区分する。都市部の常住人口が 50 万人以下を小都市、中に 20 万人以上 50 万人以下の都市を一型小都市、20 万人以下の都市を二型小都市。都市部の常住人口が 50 万人以上かつ 100 万人以下を中型都市。都市部の常住人口が 100 万人以上かつ 500 万人以下を大型都市、その中、300 万人以上 500 万人以下の都市は一型大型都市、100 万人以上 300 万人以下の都市を二型大型都市。都市部の常住人口が 500 万人以上 1000 万人以下の都市を特大都市。都市部の常住人口が 1000 万人以上の都市を超大型都市。
4. 「北京新聞—北京首次發布環路人口分布数据—57.1%常住人口在三至六環」北京晨報（電子版）2015年5月22日 A08 http://bjcb.morningpost.com.cn/page/1/2015-05/22/A08/20150522A08_pdf.pdf（閲覧日:2015年8月10日）
5. 「城市標準調整—山東 7 特大城市變大城市」大衆日報—大衆網 2014年11月25日
http://sd.dzwww.com/sdnews/201411/t20141125_11425503.htm（閲覧日:2015年9月15日）
6. 第一財經週刊（電子版）2013年12月9日「中国城市分級」<http://www.cbnweek.com/v/books>（閲覧日:2015年9月15日）

参考文献

- 大和礼子(1995)「性別役割分業意識の二つの次元—『性による役割振り分け』と『愛による再生産役割』」『ソシオロジ』40(1),109-126
- 尾崎史章(1998)「女性の性別役割意識の変動とその要因」尾崎史章編『SSMM 調査シリーズ 14 ジェンダーと階層意識』1995年 SSM 調査研究会 1-22
- 佐々木尚之(2012)「JGSS 累積データ 2000—2010 にみる日本人の性別役割分業意識の趨勢—Age-Period-Cohort Analysis の適用」『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集 No.12』69-80
- 佐野まゆ・高田谷久美子・近藤洋子(2007)「大学生における性別役割志向によるライフコース観の比較」『山梨大学看護学会誌』6(1), 45-52
- 田姫(2015)「中国人女性の性別役割分業意識を形成する要因：インタビュー調査による検討」第 35 回家族関係学部

会セミナーにおける口頭発表 於ウィル愛知

内藤哲雄・金娟鏡(2003)「既婚女性の性別役割意識に関する PAC 分析—子どもが生まれることによる変化について」『人文科学論集—人間情報学科編』37,23-43

中澤 洪(2007)「性別役割分業意識の日英比較と変動要因：British Household Panel Survey を用いて」『東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ No.3』東京大学社会科学研究所

長尾由希子(2008)「若年男女における性別役割分業意識の変化とその特徴：高校生のパネル調査から」『東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ No.12』東京大学社会科学研究所

永瀬 圭・太郎丸博(2014)「性別役割意識のコーホート分析—若者は保守化しているか」『ソシオロジ』58(3),19-33

やまだようこ(2001)「人生を物語ることの意味—ライフストーリーの心理学」やまだようこ編『人生を物語る—人生のライフストーリー』ネルヴァ書房

第三期中国妇女社会地位调查课题组「第三期中国妇女社会地位调查主要数据报告」『妇女研究论丛』108(6)：5-15

王海英・崔梦舒(2014)「个体性别角色形成中家庭因素的影」『东北师大学报（哲学社会科学版）』268(2)：171-174

徐安琪(2010)「家庭性别角色态度：刻板化倾向的经验分析」『妇女研究论丛』98(2)：18-28

田 媛

でん げん お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科研究科 ジェンダー学際研究専攻

指導教員によるコメント

田さんの研究の主な目的は中国人若年女性の性別役割分業意識の形成・変化に関する要因を検討することです。過去にこの課題を扱った研究が少ないために、本研究結果は社会的・教育的な意義が大いにあるものだと考えられます。田さんは私の研究室に2014年4月から所属し、社会学理論や調査法を基礎から応用まで熱心に学び、研究に関連する文献資料を多く読んできました。今夏は貴プログラムの助成をいただき、現地でインタビュー調査を実施することができました。

今回のインタビュー調査の結果は、博士学位論文研究で実施予定の量的調査で使用する調査票内の質問項目設定に役立っています。更に、今後、先行研究をまとめながら、今回の調査データの詳細な分析を行なっていく予定です。今回の調査は田さんの今後の研究にとって欠かせないプレ調査であり、博士学位論文の基になるデータと言えます。

今回収集したデータを分析し、学会発表や投稿・掲載論文を通して、男女共同参加の推進に寄与できる研究であり、かつ研究成果を社会に発信・還元していくことが大いに期待できる研究であると確信しています。

(お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科研究科 石井クンツ昌子)

Factors Contributing to the Gender Divisions of Labor Consciousness among Females in China : An Interview Study

TIAN Yuan

China is witnessing its remarkable economic growth; in the meanwhile, however, the gender division of labor consciousness among young population tend to become conservative. And a similar tendency is seen in Japan, according to previous studies.

In this study, a semi-structured interview was conducted on the married females who gave birth in their 20s and 30s, and with children rearing experience, when the parents of these women were both in good health.

Interviewees were sampled from three cities with different urban hierarchies in China. The relationship between life events and the change of gender division of labor consciousness among young Chinese women was analyzed from a "micro" point of view.